

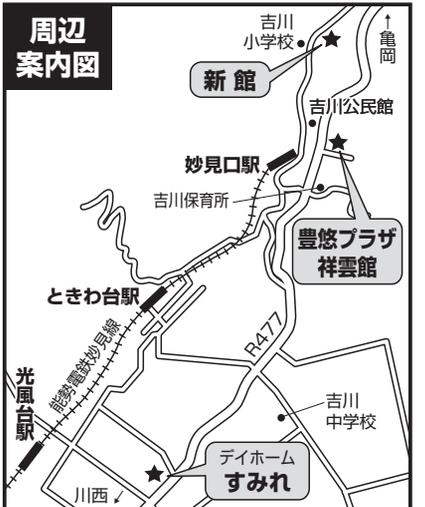


第62号
発行：平成26年4月6日

社会福祉法人桃林会
社会福祉法人豊悠福祉会

〒563-0101
大阪府豊能郡豊能町吉川187-1
TEL：072-733-2301
FAX：072-733-2303

番号をお間違いないようご注意ください



新たな事業への抱負

「ともに暮らす場」 地域密着型特別養護老人ホーム

住み慣れた家があり、その場所で最期まで暮らしたいと思っっている方がたくさんいらっしゃるのではないかと思います。しかし、それが何らかの

理由で叶わなくなった時に、住み慣れた場所の光や風や匂いによって支援を必要とする方々が癒され、孤独から解放されるような「ともに暮らす場」が必要となります。

4月より、豊悠プラザに「自宅の少し離れたところに、お部屋ができたと思っただけのような、身近で温かいホーム」を目標として、特別養護老人ホームを開設することとなりました。

新しい特別養護老人ホームは、豊能町にお住まいの地域の方が対象となっています。住み慣れた地域へのこだわりや生活習慣など、これまで以上にご入居され



「私は、毎日お風呂に入るのが日課です」「あのお店で買い物したい」「年に一度は田舎に墓参りに行きたい」このような思いや希望を一つでも実現していければと考えています。

入居された方の思いやこだわりをご家族様と私たち職員と一緒に考え、「この特養にしてよかったです」「この地域で暮らせてよかった」と感じてもらうよう、お手伝いさせていただきます。

事業内容としては、特別養護老人ホームの洗濯業務委託（作業・訓練）を中心として、ゆくゆくは喫茶コーナーの運営など、ご利用される方々と一緒に事業内容の幅を広げていく予定です。また、給食サービスによる昼食の提供や「参加してみたい」と思えるレクリエーション活動、看護師による健康相



談など、どなたでも安心して利用できる事業所を目指します。
ここでは様々な人が集まり、出会う「集いの場」があります。「集いの場」では、新しい「ひと」と出会い、共に時間を過ごすことで、お互いを思いやったり、心配したり、そして励まし合いながら、利用者を中心とした様々な人間関係が築かれます。

人間関係を築くのが苦手な方、今の社会生活の中で生活のしづらさを感じておられる方でも「集いの場」の力を感じられるよう、利用様一人ひとりに向き合い、心に寄り添いながらの支援することで利用者様の心安らぐ居場所づくりを進めます。

笑雲 Café 第18回 『東日本大震災から3年を迎えての生活支援』

笑雲caféも今回で18回目を迎えます。今回は、岩手県釜石市鶴住地区のサポートセンター職員派遣活動に参加したケアプランセンター祥雲館 ケアマネジャーより、震災復興支援活動の様子や今の現状、課題などを報告します。今後、豊能町で災害が起きた時、何ができるかを一緒に考えましょう。(裏面でも紹介しています)

【日 時】平成26年4月26日(土) 10時～12時
【場 所】吉川自治会館2階
【会 費】200円(茶菓代として)
【語り手】ケアプランセンター祥雲館 玉利 哲也



お申込みは、祥雲館 TEL：072-733-2301まで

TOPICS

★認知症研修『バリデーション』(12月22日)

外部講師によるバリデーション研修がありました。初任者対象の入門編から、認知症の方の思いに近づくヒントをお話いただき、中級編では実践に繋げる内容の講義でした。

★ごちそう! Xmas (12月)

クリスマスの今日の昼御飯は、見て楽しい食べて美味しい、豪華Xmas寿司でした! 「あ~幸せ」とあちこちから、聞こえてきました!



★祥雲館のお正月(1月)

ショートでは近所の神社へ初詣に行きました。グループホームではすき焼きパーティー! 本館特養では、オリジナルの「笑雲神社」(4階ホール)へお参りしました。皆さん新年を迎えて、喜ばれていました。



★毎年恒例『新春お茶会』

デイサービスセンターあじさいでは、お茶会が開かれました。とっても略式ですが、気軽に楽しめて利用者さんにも好評です。

★ピザまつり!! (1月20日)

厨房委託の魚国さんより、100周年キャラバン隊がピザ釜を積んでやってきました♪ 米粉で作ったオリジナルピザは、絶品でとっても食べやすく、パクパクと召し上がっておられました。



★デイみずほの新年会(1月28日)

デイサービスセンターみずほで「おでんパーティー」をしました。お鍋いっぱいのおでんがあつという間になくなり、その後、スタッフによるミニコンサートがありました♪



★第17回笑雲cafe(2月8日)

テーマは「おもてなし」です。私たちにできる「おもてなし」って何だろう……? と再確認する機会になりました。雪の降る中、地域の皆様も多数参加いただき、有意義な時間を過ごすことができました。

★事前研修(2月11日)

今春定期採用予定の学生を対象に、4月1日からの就職に向け、事前研修が始まりました。まずは、福祉! 仕事! 社会人! これからのイメージ作りをテーマに研修を行いました。



★花折街道

能勢電鉄妙見口から黒川ケーブル乗り場までの道沿いに、利用者さんと職員との協働で作った雑飾りを飾りました。かまぼこ板で作った作品は可愛さ満点でした。



★イチゴ狩り(3月12日)

ショートスティのイベントでイチゴ狩りに行きました。とっても美味しいイチゴを30個食べていた方も! 研修生も一緒に楽しみました。



TOPICSはホームページでも詳しくご覧いただけます。

facebook 始めました!

次回の発行は平成26年7月6日(日)です

『鶴住居地区サポートセンター』の応援業務についての報告

ケアプランセンター祥雲館 介護支援専門員 玉利哲也



私はこの度、大阪府社協老人施設部会から派遣協力の依頼を受け、平成26年3月2日~16日の15日間、岩手県釜石市「鶴住居地区サポートセンター」(以下センター)に赴きました。

センターとは、震災で自宅を失くされた計221世



大槌町役場

帯386名が暮している、6つの仮設住宅団地を対象地域として、要介護高齢者・障がい者(児)等に対する総合相談、訪問サービス、デイサービス、生活支援サービス等を包括的に行なっています。

派遣期間中、現地では震災から3年目の節目を迎え、テレビ・新聞などでは震災関連の報道や番組が多く流れていました。大阪では報道を通して震災の事を

思い返し、振り返るきっかけになります。しかしながら現地では報道が増えることにより、また3月11日が近づくことで、震災当時の状況を思い出し、フラッシュバックを引き起こすこともあるとの話しを聞き、震災を風化させないための報道も、全ての人にとって良い面ばかりではないと実感しました。

三陸鉄道では、震災で不通になっていった北リアス線の一部区間も試運転を始め、この4月6日から震災以来、初めて全線が復活します。3月14日より釜石市港町に、市が復興の核として誘致した「イオンタウン釜石」がオープンし、沿岸部最大級の商業施設として、多くの人々が買い物や食事を楽しんでいました。震災から3年、生活再建への見通しが立たない面や、新たなまちづくりも始まったばかりですが、着実に復興への歩みの息吹が感じられます。

ホスピタリティプロジェクト

家族様へのワンプラス活動

日ごろの会話のヒントを集めた「家族様との会話集」を作成し、職員全員に配布しました。

職員間の気配り・心配り

職員間の関わりに焦点を当てた「あるあるDVD」第二弾を作成しました。何気ない仕草を気づきに変えていきたいです。

職員間交流

施設内での職員交流の一貫として、他部門体験プログラムを進めています。特養の介護職員が訪問介護体験をしたり、夜間勤務のない在宅職員が施設夜勤を体験し、相手を知るきっかけ作りになればと思っています。

編集後記

4月から祥雲館・豊悠プラザが新たな出発をしました。そして、事務所も以前の特別養護老人ホーム祥雲館1階事務所から豊悠プラザ地下1階へ移転し、新たな気持ちで再スタートです。

祥雲館・豊悠プラザが、利用者さんにとっても、ご家族様にとっても、そして施設で働く職員にとっても快い居場所になるよう努力していききたいと思っています。

広報担当 滝本